

小説発話への発話意図アノテーションのための末尾部分分析の試み

夏目和子 佐藤理史

名古屋大学大学院工学研究科

natsume@nuee.nagoya-u.ac.jp

概要

実際の小説の発話文において、どのような発話意図がどのような文型で表現されているかを整理するためには、発話文に対して発話意図を付与する作業が必要となる。しかしながら、この作業は、発話意図のラベルセットが確定していないため、試行錯誤を伴う作業となる。我々は、発話文の末尾部（終助詞および終助詞相当句）に注目し、発話意図の付与と発話ラベルセットの整理を同時に行う方法を採用する。この方法に基づいて、「かしら」「かよ」「から」の3種類の末尾部を持つ約400の小説発話文に対して発話意図を付与した。

1 はじめに

小説のセリフ（発話文）は、小説を構成する重要な要素の1つであり、ストーリーの展開においても、一定の役割を担う。登場人物（話者）は、それぞれの発話文において、ある特定の意図を持って発話していると考えられる。その意図にはどのような種類があるのだろうか。それらの発話意図は、どのような文型で表現されているのだろうか。

対話システムを対象とした発話行為の分類（ラベルセット）は、これまでに、いくつか提案されている。しかしながら、小説の発話は単なる対話よりも多くの機能を担うため、より多様な発話意図が存在すると考えられる。これを確認するためには、実際に小説の発話文に発話意図を付与して試みる必要がある。

小説の発話文に発話意図を付与する作業は、発話意図のラベルセットが確定していないため、試行錯誤を伴う作業となる。今回、我々は、発話文の末尾部（終助詞および終助詞相当句）に注目し、発話意図の付与と発話ラベルセットの整理を同時に行う方法を採用する。具体的には、まず、日本語辞書や日本語学で示されている終助詞の働きを整理し、それぞれの末尾部に対して初期ラベルセットを設定する。

そのセットを出発点として実際に小説発話文に発話意図を付与する作業を行い、必要に応じてラベルセットを増強する。

本稿では「かしら」「かよ」「から」の3種類の末尾部を取り上げる。「かしら」は疑問を表す基本的な終助詞のひとつであり、「かよ」は疑問と伝達の助詞の接続形で話し言葉特有の機能を持つ。「から」を取り上げた理由は、いわゆる「言いさし文」がどのような発話意図を担うのかを明らかにするためである。本稿では、エンタメ小説4作品の上記末尾部を含む約424発話文に対し、実際に発話意図付与作業を行った結果を報告する。

2 手順

2.1 全体の手順

小説発話文に発話意図を付与する手順を以下に示す。

- ① 末尾部リストを作成する（現在、178種を使用）
- ② 発話文に発話意図を付与する
 - i. 小説から発話文を抽出する
（対象とする小説を付録の表8に示す）
 - ii. 各発話文の発話者を人手で付与する
 - iii. 末尾部リストを用いて、各発話文の末尾部を切り出す
 - iv. 末尾部の種類別に、発話意図を付与する

2.2 発話意図付与の手順

上記の②ivの手順の詳細を以下に示す。

- ① 対象末尾部を選定する
今回は、「かしら」「かよ」「から」を選定
- ② 辞書・文献等から発話意図リストを作成する
リストの項目：用例文・語釈など・グループ（発話意図の大分類）・発話意図・文型・述語
- ③ 実際の発話文に発話意図を付与する。この過程で適当な発話意図がなかった場合は、適宜追加する

3 終助詞「かしら」

『三国[1]』(1-3)及び『大辞泉[2]』(4-8)の各用例文に対し、辞書の語釈などを参考に、発話意図・文型・述語を付与した。この結果を表2に示す。この表の発話意図のグループは、ラベルの上位概念である。文型及び述語は、発話意図と文型の関係を整理するために記述した。

辞書の語釈によると、終助詞「かしら」の働きは、自分に問う(1, 4, 5)、相手に問う(3, 6)、疑問文の形で願望(7)や丁寧な依頼(2, 8)の意図を伝えることである。

この表を出発点として、末尾部「かしら」を含む小説発話文に発話意図を付与する作業を行った。対象文は112文で、形のバリエーションは「かしら/かしらね/かしらん」+文末記号である。その過程で追加した発話意図を表3に、付与した発話意図の分布を付録の表8に示す。

表3より、「かしら」は、述語次第で多様な発話意図を表現できることがわかる。すなわち、「かしら」はキャラ語尾として利用可能と思われる。ちなみに、「かしら」を含む発話112文中101文の話者は、『化物語』のツンデレキャラの「戦場ヶ原ひたぎ」である。

表2 辞書の用例文の発話意図リスト：終助詞「かしら」

辞書の記述		発話意図			
用例文	語釈など	グループ	ラベル	文型	述語
1 あの人行く(の)かしら	自問や問いかけ、丁寧に頼む	質問	疑問	Vb(の)かしら	行く
2 あなたから言ってもらえるかしら		行為要求	依頼	Vb可能形かしら	言ってもらう
3 そうだったかしらね	ときのことば。	質問	確認	Ctかしらね	そうだ
4 あら、雨が降ってきたのかしら	口調を和らげ、不審・疑問の気持ちを表す。自問。	質問	疑問	Vtのかしら	降ってくる
5 午後は何をしようかしら		質問	迷い	Vb意志形かしら	する
6 ご都合はいかがかしら		質問	質問	Cbかしら	いかがだ
7 私も連れていってくれないかしら	打ち消しの助	意志表示	願望	Vnかしら	いってくれる
8 お世話願えませんかしら	動詞のあとに。願望・依頼の意	行為要求	依頼	Vb可能形ませんかしら	願う

表3 小説発話用追加発話意図リスト：終助詞「かしら」

小説		発話意図			
発話文	話者	グループ	ラベル	文型	述語
1 じゃあ、目玉の一つくらいなら、いいかしら？(化)	戦場ヶ原	質問	許可要求	Abかしら？	いい
2 開架にないなら、書庫かしら(氷)	伊原	意見	推理	Cbかしら	書庫だ
3 一緒にしたら、犬に失礼かしら(化)	戦場ヶ原	意見	皮肉	Cbかしら	失礼だ
4 ……これぞ猿知恵ならぬ犬知恵といったところかしら(化)	戦場ヶ原	意見	貶し	Cbかしら	ところだ
5 失礼なことを言わないでくれるかしら？(化)	戦場ヶ原	行為要求	禁止	Vbかしら？	言わないでくれる
6 あら、そうかしら(化)	戦場ヶ原	態度表明	疑い	Cbかしら	そうだ
7 事前に連絡を入れておくべきじゃなかったかしら？(化)	戦場ヶ原	態度表明	非難	Cbかしら？	べきだ
8 たかだか一年足らずだというのに、なんてことかしら(化)	戦場ヶ原	感情表出	驚き	Cbかしら	ことだ
9 さしあたり、全快祝いといったところかしら(化)	戦場ヶ原	情報伝達	説明	Cbかしら	ところだ

4 終助詞「かよ」

『三国[1]』(1-8)と『日本国語大辞典[3]』(9)の各用例に、辞書の語釈などを参考に、発話意図・文型・述語を付与した。その結果を表4に示す。なお、用例(9)は、疑問の終助詞「か」と間投助詞「よ」の接続形「かよ」の例文である。

この表を出発点として、末尾部「かよ」の小説発話文に発話意図を付与する作業を行った。対象文は52文で、形のバリエーションは文末記号と促音の付与である。この過程で追加した発話意図を表5に、発話意図の分布を付録の表9に示す。

この表に示すように、「かよ」は、非難・指摘・ツッコミ・怒りなど攻撃的な意図を表す場合にも使用される。なお、「かよ」を用いる話者は10代の少年であった。

表4 辞書の用例文の発話意図リスト：終助詞「かよ」

辞書の記述		発話意図			
用例文	語釈など	グループ	ラベル	文型	述語
1 本当かよ	〈おどろいて／反発や非難をこめて〉たずねることば。	質問	確認	Cb かよ	本当だ
2 わかったかよ		質問	質問 (非難)	Vt かよ	わかる
3 なんだ、お前かよ	気づいてがっかりした気持ちをあらわす	感情表出	落胆	Cb かよ	お前だ
4 また雨かよ		感情表出	落胆	Cb かよ	雨だ
5 そんなこと知るかよ	反発して否定する気持ちをあらわす	態度表明	反発	Vb かよ	知る
6 お前、幼稚園児かよ！		意見	貶し	Cb かよ！	園児だ
7 お前、気づかひの達人かよ！	するどく指摘するように言って、じつはほめる言い方。本当に…(だ)な！	意見	褒め	Cb かよ！	達人だ
8 最高かよ！		意見	褒め	Cb かよ！	最高だ
9 そんなことができるかよ	疑問、反語の意をぞんざいに強く表わす	態度表明	反発	Vt かよ	できる

表5 小説発話用追加発話意図リスト：終助詞「かよ」

小説		発話意図			
発話文	話者	グループ	ラベル	文型	述語
1 ……しかしお前、部活はいいのかよ (化)	阿良々木	質問	質問	Ab のかよ	いい
2 本当に陸上選手なのかよ (風)	他大学生	質問	疑い	Cb なのかよ	選手だ
3 お前に慈悲はないのかよ (化)	阿良々木	態度表明	非難	Vb のかよ	ない
4 ノリノリなんじゃねえかよ！ (化)	阿良々木	意見	指摘	Cb なんじゃねえかよ！	ノリノリだ
5 出所祝いかよ！ (風)	走	意見	ツッコミ	Cb かよ！	出所祝いだ
6 ほとんど悪意じゃねえかよ！ (化)	阿良々木	感情表出	怒り	Cb じゃねえかよ！	悪意だ
7 あーあ、なんか景気のいい話はないのかよ (風)	キング	感情表出	不満	Ab のかよ	ない
8 以上なのかよ (風)	キング	感情表出	呆れ	Cb なのかよ	以上だ
9 『大熊猫大好き』さんはお前かよ！ (化)	阿良々木	感情表出	驚き	Cb かよ	お前だ

5 接続助詞「から」の終助詞用法

接続助詞「から」の終助詞用法は、国語辞典の用例文では小説発話の発話意図を分析するには不十分であると判断し、発話意図の設定にあたっては、日本語学の研究書籍・論文を参考にした。

接続助詞「から」は、本来、従属節の末尾に位置して、後続する主節の原因・理由などを表す。前田[4:125]によると、接続助詞「から」は、①原因・理由、②判断根拠、③可能条件提示を表し、それぞれの主節の表現形式は、以下のようになる。

- ① 確言による述べ立て、判断を表す述べ立て
- ② 判断を表す述べ立て、命令・依頼などの働きかけ、意志・希望などの表出表現
- ③ 働きかけ

話し言葉では、主節の省略や倒置などによる「から」の終助詞的な用法が多いので、終助詞用法においても、前田の主節の表現形式の分析は利用できる。

「から」には、主節が存在しない、いわゆる「言いさし文」の用法がある。白川[5]は、言いさし文の表現効果として、①意志を告知する、②新情報を告知する、③反応を促す、を示している。白川の用例文(1-3)、および、後件の省略(4)と倒置(5)の用例に対して発話意図・文型・述語を付与したものを表6に示す。

この表を出発点として、末尾部が「から」の小説発話文 260 文に発話意図を付与する作業を行った。形のバリエーションは、終助詞「よ、ね、な」と記号の付与である。なお、末尾に表れる「から」は、終助詞、接続助詞の終助詞用法のほかに、格助詞「から」や述語のない発話があるが、それらの発話文は

除外した。

この過程で追加された発話意図を表7に、その分布を付録の表10に示す。この表に示すように、「から」は、警告・告白・指摘・許可など、直接相手に働きかける発話意図の表出に使用される場合がある。

6 まとめ

「かしら・かよ・から」を末尾部に持つ小説発話文に対して、発話意図を付与することを行った結果、これまで指摘されていたよりも多彩な発話意図を表す場合に用いられることがわかった。具体的には、「かしら」が広範囲の発話意図に利用可能であること、「かよ」の攻撃的な用法、および、「から」の相手に働きかけるコミュニケーション的な用法の存在が明らかになった。

表 6 白川 1991 の用例文の発話意図リスト：接続助詞「から」

白川 1991		発話意図			
用例文	知見	グループ	ラベル	文型	述語
1 ぼく先に戻ってますから	意志を告知	意志表示	決意	Vb テますから	戻る
2 あなたのお隣のベッドに患者さんが入りますから……	新情報を告知	情報伝達	告知	Vb ますから…	入る
3 もうすぐできますから	反応をうながす	行為要求	説得	Vb ますから	できる
4 それじゃ、私、邪魔しちゃ悪いから……	主節の省略。理由	情報伝達	説明-理由	Ab から	悪い
5 ちょっと待って、お茶いれるから	倒置。可能条件提示	行為要求	依頼-実行	Vb から	いれる

表 7 小説発話用追加発話意図リスト：接続助詞「から」

小説		発話意図			
発話文	話者	グループ	ラベル	文型	述語
1 貸し出し用の鍵は一つだけだからね (氷)	奉太郎	情報伝達	説明-事情	Cb からね	一つだけだ
2 嘘を申告しても～だいたいわかるから (風)	ハイジ	情報伝達	警告	Vb から	わかる
3 僕は二次元の女の子にしかキョーミないから (風)	王子	情報伝達	告白	Ab から	キョーミない
4 俺がハイジさんに心配かけたから…… (風)	走	態度表出	後悔	Vt から…	心配かける
5 いいんです、～仕方ありませんから (氷)	千反田	態度表明	納得	Vb から	ありません
6 パソコンも頑張っているようだから (風)	神童	意見	推量	Vb テイルよ うだから	頑張る
8 またそうやって～ごまかすんだから…… (氷)	伊原	意見	指摘	Vb んだから …	ごまかす
9 走る姿って、きれいだから (風)	走	意見	感想	Cb から	きれいだ
10 また電話してきていいから (風)	医者	行為要求	許可	Vb テいいから	してくる

謝辞

本研究は JSPS 科研費 JP18H03285, JP21H03497 の助成を受けたものです。

出典一覧

米澤穂信. 『氷菓』. KADOKAWA, 2001
三浦しをん. 『風が強く吹いている』. 新潮社, 2009.
西尾維新. 『化物語上・下』. 講談社, 2006.
辻村深月. 『かがみの孤城』. ポプラ社, 2017

参考文献

1. 『三省堂国語辞典第八版』. 三省堂, 2022.
2. 『デジタル大辞泉』. 小学館, 2012.
3. 『日本国語大辞典第二版』, 2000.
4. 前田直子. 『日本語の複文』. くろしお出版, 1986.
5. 白川博之. 「から」で言いさす文. 広島大学教育学部紀要第2部 Vol39, 1991.

A 付録

書名 (略称)	著者	発話文数
かがみの孤城 (かがみ)	辻村深月	4,345
化物語 (化)	西尾維新	11,716
氷菓 (氷)	米澤穂信	1,939
風が強く吹いている (風)	三浦しをん	4,439
計		22,439

表 8 小説に付与した「かしら」文の発話意図

グループ	ラベル	かがみ	化	氷	風	計
質問	質問		39	5		44
	確認		5	2		7
	迷い		10	1		11
	自問		8			8
	許可要求		2			2
意見	推量		12			12
	推理		6	1		7
	皮肉		1			1
	貶し		2			2
意志表示	願望		2			2
行為要求	依頼		6			6
	禁止		2			2
	疑い		3			3
態度表明	非難		2			2
	驚き		1			1
感情表出	驚き		1			1
情報伝達	説明		2			2
	計	0	103	9	0	112

表 9 小説に付与した「かよ」文の発話意図

グループ	ラベル	かがみ	化	氷	風	計
質問	質問	1	2			3
	質問 (非難)	1			1	2
	確認		3			3

	疑い				2	2
態度表明	非難		3		1	4
	反発		2			2
意見	指摘		2			2
	ツッコミ		3		2	5
	貶し					0
	褒め					0
感情表出	怒り		3			3
	不満				3	3
	呆れ	1	8		1	10
	落胆	2	3			5
	驚き		8			8
	計	5	37	0	10	52

表 10 小説に付与した「から」文の発話意図

グループ	ラベル	かがみ	氷	風	計
情報伝達	説明-理由		19	26	
	説明-事情		6	29	
	警告			3	
	予告			2	
	告白			5	
態度表明	後悔			1	
意見	推量-根拠		1	5	
	指摘		1	1	
	感想			5	
	慰める			1	
行為要求	勧め			1	
	説得		2	2	
	許可			2	
意志表示	決意			11	
	断り			3	
質問	確認		1		
φ	φ		3	6	
	計	124	33	103	260